

# 新しい創造の形 メタバースで学ぶ

渡辺仁史

News Paper

第14号

2024.01.01

それは観察から始まった……人間行動と建築情報学



think the future from

hitoshi watanabe lab.

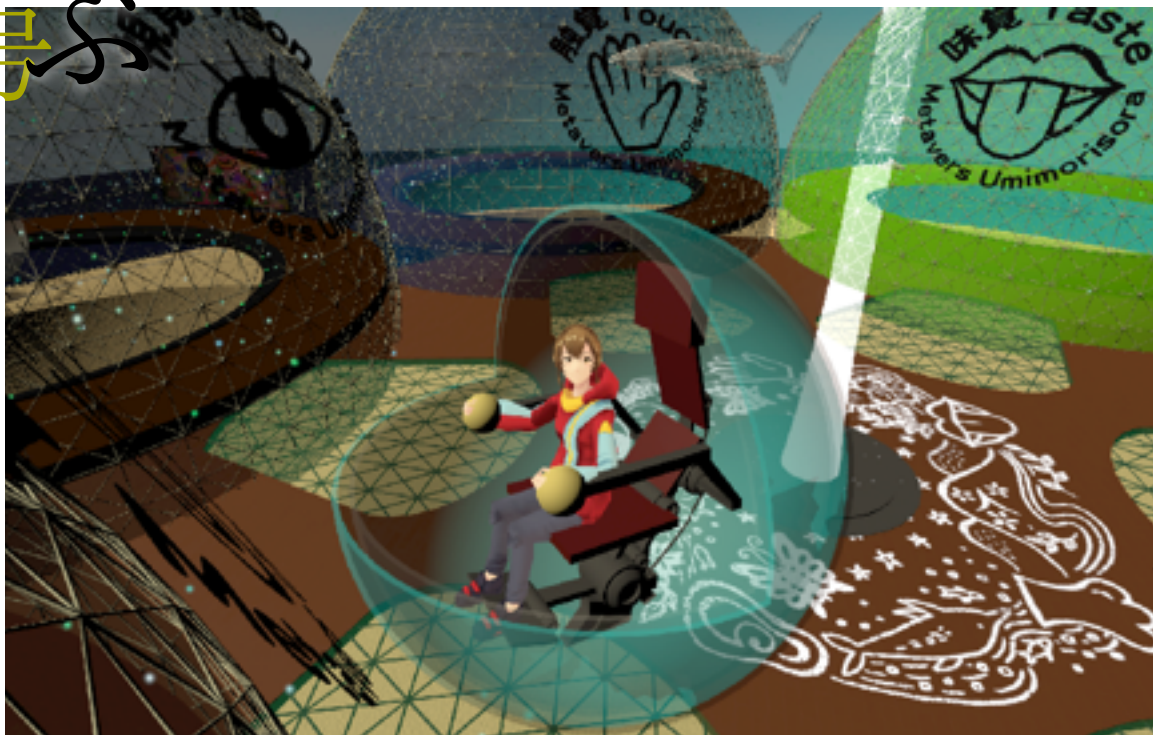
## ●リアルとバーチャルを繋ぐ

- 令和5年度沖縄観光コンテンツ開発支援事業の補助を受けて、NPOうみもりそらに取り組んだテーマは「メタバース石垣島を活用したファミリー向けの新しい学習型観光の開発」というものでした。
- 観光にメタバースを取り入れる動きは、ここにきて様々な自治体なども取り組んでいるのですが、その多くはリアルな観光地をそっくりそのままバーチャルな空間に取り入れて、現地に来なくても観光気分を味わえるというものです。
- メタバースの良さは、現実の世界では体験できない冒険をすとか、異なるスケール感での新しい発見ができること、さらに重力のない浮遊移動ができることや、壁を通り抜けるなど、人とモノとの関係に新しいルールや行動が取り入れられるという特性を生かすことが求められているような気がします。
- そこで、今回、我々のNPOがメタバースワールドを構築する環境として利用したのが「クラスター」という日本で開発したプラットフォームです。
- メタバース石垣島は、7つのサブエリアに分かれていて、その一つ一つに石垣島

の観光資源が、ゲーム感覚で生かされていて、遊びながらクイズやゲームをクリアしていく中で「学び」が得られるというコンセプトで構築されています。

- 例えば、ジグソーパズルを完成させると、そこに石垣島の希少生物（国指定の特別天然記念物のカムリワシなど）たちの全身の姿が現れる、あるいは、石垣島から見るることができる星空をプラネタリウムのようにメタバースワールドに再現して、自分の星座を探してシューティングするとポイントがもらえるなど、遊んでいるうちに石垣島の観光資源を理解でき、実際に石垣島に行ってみたくなるような仕掛けを組み入れています。

- 初年度のこの実験的な取り組みが評価されれば、さらにコンテンツを充実させて、来年度以降には、本格的にメタバース空間で旅前の学習をしてから、実際に石垣島の現地を訪ねそれらを実体験する。旅から帰った後でも、またメタバース空間で追体験したり、知り合った友達と新たな交流の「場」となるような事業へと発展させたいと思っています。一緒に取り組んでくれる卒業生を求めていますので、興味あればご連絡ください。



メタバース石垣島のエリアの一つ、メタバースうみもりそらの活動展示ドームをクラスターで作成